

モンテッソーリインターナショナルスクール
～卒園生の言葉～

モンテッソーリ、それは子どもの無限の可能性を最大限に引き出すメソッドです。人生で最も多感な時期である幼児期の子ども達の知的好奇心を自発的に引き出し、それを満たすに足る教育を施す。この、子ども達の主体性を最も尊重している点がモンテッソーリの最大の特徴であり魅力であります。

幼稚園から高校まで、日本の一般的な教育を得てして子どもの主体性を削ぎ、逆に画一的にしてしまう傾向があります。その反動からか、近年は「個性の尊重」といったスローガンが各方面で大々的に打ち出されていますが、幼児期から主体的に行動することをしてなかった子ども達は簡単には適応できずにいるのが現状です。

人は自分で考え、自分から行動しない限り成長することはできません。モンテッソーリで培った主体性は勉強面のみならず、自分のアイデンティティ形成に大きな役割を果たしています。モンテッソーリインターナショナルスクールの卒業生として、より多くの子ども達がここで学び、自らの可能性を大きく広げていくことを期待しています。

以上

(1994年卒業生)

モンテッソリー教育、それは子供の自発的な知的好奇心を成長させる教育メソッドです。日本の一般的な学校教育において軽視されがちな子供一人一人の個性を否定することなく自由に伸ばし、その子の可能性を最大に引き出してくれる環境こそモンテッソリー教育最大の利点だと、この幼稚園で育った者として強く感じます。

自分は現在大学でアメリカ文化を研究しているのですが、大学という場所はそれまでの教育とは異なり、自らの興味関心を赴くままに知的好奇心・欲求を満たす場であります。しかしながら実際は「自分のやりたい事」が発見出来ないまま惰性で大学に来てしまう学生がほとんどであるように感じます。これは学生が幼稚園教育・義務教育を通して、教師によって一方的に知識を与えられることに慣れすぎた結果、自らのアイデンティティを確率し得ないまま大学に進学したための弊害であると考えられます。

モンテッソリー教育では子供一人一人の興味関心に基づき、適切な教材を適切なタイミングで提供し、その子の可能性を最大まで引き出してくれます。これを幼児のうちに行うことにより、その後を一生を規律する自立性・主体性の基礎が育まれるのです。

「子供の個性尊重」、「幼児期からの高等教育」といったことが声高に叫ばれている昨今ですが、肝要なのは親や教師が一方的に知識を詰め込むことではなく、子供の知的好奇心の発達を促して、その子の可能性の幅を広げてあげることです。日本の一般的な幼児教育とは一線を画すモンテッソリー教育、興味を持たれた方は一度見学に来てみたらいかがでしょうか。

1994年～2010年在学 男 22歳